

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名(数学) 指導者名 (石鍋慶文、高林陽介、橘智子)

生徒の状況・課題の分析

(第1学年)

授業に集中して取り組んでいる。家庭学習(ワーク、復習ノート)の提出状況はほぼ全員できているが、取り組み方法に大きな差が見られる。計算コンテストや小テストの実施を通して、8割の生徒が、基礎の定着はできている。

(第2学年)

授業に集中して取り組んでいる。課題に対しても8割の生徒が前向きに取り組んでいる。28%の生徒が、発表や話し合い活動への取り組みに課題がある。基礎の定着で少し差が出てきているものの、計算コンテストの実施を通して、9割の生徒が、基礎の定着はできている。

(第3学年)

どのクラスも授業に集中して取り組んでいる。基礎的な知識や技能は定着している。一方、アンケートより、発言や話し合いに積極的に参加できていないとの回答が全体の20%いた。

教科の目指す育てたい力

- ・自ら学び、自ら考える力をつける
- ・基礎的、基本的な知識。表現処理能力を活かし、応用力を身につける。

授業改善推進プラン(課題解決のための具体策)

(第1学年)

クラス全体や、2~3人の少人数での話し合い活動を授業内に取り入れることにより、自ら学び考える授業を展開していく。また、復習ノートの取り組みを通して、自分の課題や、その課題に対して具体的に何をすべきかを考え、行動する力を身につける指導を行っていく。

(第2学年)

クラス全体や、2~3人の少人数での話し合い活動を授業内に取り入れったり、全体発表を取り入れることで、自ら学び考える授業を展開していく。また、小テストを実施し、学習に対する意欲を高め、基礎の定着につなげる。

(第3学年)

机間指導を十分に行い、継続して基礎的な知識や技能の定着を徹底する。発表や話し合い活動については、2~3人の少人数での話し合いを繰り返すことで、全体発表へとつなげていく。発表の内容や手順を提示することで発表への不安をなくしていき、生徒が積極的に参加できる環境を作っていく。